

平成24～27年度用／中学校美術科

●題材別評価基準一覧 ●年間指導計画作成資料

目 次

●題材別評価基準一覧

●年間指導計画(A案:3学期制)(B案:2学期制)

A案 : (第1学年)

: (第2学年)

: (第3学年)

B案 : (第1学年)

: (第2学年)

: (第3学年)

年間指導計画内の記号

★ : 週2時間の授業計画による題材(無印は週1時間の授業計画による題材です)

■ : 題材名の色アミは、鑑賞中心に活動する扱いの題材です。

関 : 造形への関心・意欲・態度

発 : 発想や構想の能力

創 : 創造的な技能

鑑 : 鑑賞の能力

[共] : [共通事項]との関連

開隆堂

まえがき

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域で飛躍的に重要度が増す「知識基盤社会」の時代である、と平成20年度告示の学習指導要領は述べています。固定された知識や絶対的な価値といった20世紀型の物差しでは物事を測れない世界が現れたということです。そして我が国の教育界においてもこれからの社会に適応できるように、いわゆる「生きる力」を育むことが重視されています。このような状況の中での指導要領の改訂ですが、美術科でも、いくつかの重要なポイントがありました。美術文化についての理解、鑑賞における言語活動の充実などです。いずれも21世紀を生き抜いていく中学生にとって重要な学習課題と言ってよいでしょう。これらの学習課題に対して意欲をもって取り組めるような授業を設定していくことが、年間計画を立てていく上で重要になってくると考えられます。

今回教科書を改訂するに当たって、平成20年度告示の学習指導要領の趣旨を踏まえ、美術の学習の必要性や重要性、実社会とのつながりなどを考えながらさまざまな改善をしました。例えば従来2・3上、下と2冊であったものを1冊にまとめ、

表現と鑑賞それぞれの領域を一体的に学習できるようにしたこと、我が国や諸外国の美術文化も多数取り上げたこと、私たちが生きている現代の美術も積極的に取り上げたこと、などです。本資料では、以上のような学習指導要領改訂の趣旨を生かした教科書を有効に活用するために標準的な指導計画を3学期制と2学期制それぞれの場合を想定して掲載しています。また、鑑賞についても十分行えるような計画としました。

選択授業のカットによる授業時数の実質的な削減やそれに伴う教員数の減少など、美術科を取り巻く状況は決して楽観できるものではありません。美術科の存在意義は社会から今後も問われることになるでしょう。この点からもなお一層指導しやすくわかりやすい年間指導計画を工夫していく必要があるでしょう。

学校の状況や、一人ひとりの生徒の実態などを考慮し、創意・工夫した指導計画作成の際の資料として、教科書と併せて本資料をご利用いただければ幸いです。

年間指導計画

■ A案 3学期制による年間指導計画

1学期を「導入」、2学期を「展開」、3学期を「まとめ」とする3学期制の年間指導計画である。3年間を系統的にとらえ無理なく表現及び鑑賞の美術の学習ができるように配慮している。さらに、各学年の学習を

第1学年では「基礎期」、第2学年では「充実期」、第3学年を「発展期」としている。本年間指導計画案における中学校3年間全体の学習の構成、及び授業時数の配分を表にまとめると次のようになる。

学期	週	第1学年	45時間	第2学年	35時間	第3学年	35時間
1学期	12週	基礎期・導入	12時間	充実期・導入	12時間	発展期・導入	12時間
2学期	14週	基礎期・展開	△24時間	充実期・展開	14時間	発展期・展開	14時間
3学期	9週	基礎期・まとめ	9時間	充実期・まとめ	9時間	発展期・まとめ	9時間
題材の構成		美術の学習への興味・関心を育てることを目的として、多様な学習領域を扱うようにする。		主体性や自主性を育てることを目的として、表現形式や技法を選択できる題材を設定する。		言語活動の充実を目的として、鑑賞領域を重視し、我が国や諸外国の美術文化を取り扱う。	

△第1学年の2学期は、14週のうち、第1週から第4週を週1時間の授業とし、第5週から第14週までを週2時間の授業を行うものとして計画している。

■ B案 2学期制による年間指導計画

1年生は美術に対する興味・関心が持続するように各領域が偏らないように配置している。2・3年生に関しては各学期ごとに学習領域の大きなまとまりをつくりつつ、他の領域も加え、単調さを避けて学習効果を上げるように配慮している。各学年の学習については、第1学年を「基礎期」として、全領域を網羅的に学習するようにするとともに、

第2学年及び第3学年を「充実・発展期」として、2年間を通して全領域の学習するよう計画している。鑑賞重視の計画で、特に3年生では鑑賞に重点をおくことも可能である。本年間指導計画案における中学校3年間全体の学習の構成、及び授業時数の配分を表にまとめると次のようになる。

学期	週	基礎期		充実・発展期			
		第1学年	45時間	第2学年	35時間	第3学年	35時間
前期	16週	基礎期・前期	16時間	充実期（デザイン・工芸、鑑賞中	16時間	発展期（絵・彫刻、鑑賞中心）	16時間
後期	19週	基礎期・後期	△29時間	充実期・（絵・彫刻、鑑賞中心）	19時間	発展期（デザイン・工芸、鑑賞中	19時間
題材の構成		美術の基礎的な力を養うことを目的として、小学校図画工作科の学習との関連を考えた各領域の導入となる題材を設定する。		主体的に表現や鑑賞の学習に取り組み、美術を愛好する心情を養うことを目的として、各題材の学習時間に配慮している。言語活動の充実を目的として鑑賞活動を重視するとともに表現と鑑賞の一体化を図っている。			
		我が国や諸外国の美術文化について学習する題材を系統立てて設定している。					

△第1学年の後期は、19週のうち、第1週から第10週までを週2時間の授業とし、第11週から第19週までを週1時間の授業を行うものとして計画している。